

日米両政府に対して辺野古新基地建設の断念と 普天間米軍基地の無条件・即時閉鎖を求める決議

本年9月30日、辺野古新基地建設の是非を最大の争点とする沖縄県知事選挙が行われ、辺野古新基地建設反対を掲げた玉城デニー氏が圧倒的な勝利を収めた。日米両政府は、これまで幾度となく示されてきた沖縄の民意を無視し、日米軍事同盟の強化のために、辺野古新基地建設を推し進めようとしてきたが、今回の玉城デニー氏の勝利は、辺野古新基地建設NOの沖縄の民意は揺るぎないものであり、こうした沖縄の民意を無視して辺野古新基地を押し付ける日米両政府に対する痛烈な批判にほかならない。

今回の沖縄県知事選において、安倍政権は、何としても基地建設を容認する県知事を誕生させるために、辺野古新基地建設の推進という立場を徹底的に隠し、自民・公明・維新の推薦を受けた佐喜真淳氏を全面支援した。菅官房長官や二階幹事長、竹下総務会長（当時）、小泉進次郎副幹事長（当時）といった自民党幹部を複数回、沖縄に送り込んで、期日前投票への動員など大規模な企業・組織ぐるみの選挙戦を展開した。公明党も、4年前の沖縄県知事選では、自主投票としたが、今回は、佐喜真氏を推薦するとともに、全国から数千規模の動員をかけ、創価学会の原田会長が沖縄を訪れるなど全面的な支援を行った。

これに対して、玉城デニー氏は、故翁長雄志前沖縄県知事の遺志を継いで、辺野古新基地建設反対を掲げ、「オール沖縄」の支援を受けるとともに、安倍政権に反対する広範な全国の国民からの支持も受け、選挙戦を闘った。

その結果、玉城デニー氏が過去最高となる39万6632票を獲得し、安倍政権の全面的な支援を受けた佐喜真氏に8万票以上の大差を付けて圧勝した。政権与党が、なりふり構わず選挙戦を闘ったにもかかわらず、沖縄の民意と安倍政権に反対する全国の力が合わさり、大勝利を収めたのである。

玉城デニー新沖縄県知事は、勝利後、「政府と対峙することの難しさは感じていない。我々の民意に沿って政府が判断すればいいと思う」と述べた。玉城デニー新沖縄県知事の言葉どおり、日米両政府は沖縄県による辺野古埋立て承認の撤回を受け入れて、速やかに辺野古新基地建設を中止し、普天間米軍基地の無条件・即時閉鎖に舵を切るべきである。

安倍政権は、日米軍事同盟強化のため、国民世論を無視し、憲法9条明文改憲を掲げ、水陸機動団の配備、「いずも」の改造、防衛費の拡大等、大軍拡をすすめている。また、横田基地へのオスプレイ正式配備や、秋田県と山口県へのイーグリス・アショア配備計画など、全国で基地強化の動きを急速に進めつつある。そして、こうした軍事同盟強化の最大の要が、最新鋭の巨大軍事基地である辺野古新基地の建設である。

その辺野古新基地建設の反対を掲げた玉城デニー氏の画期的勝利は、全国的に展開されている市民と野党の共同の拡大発展を激励強化し、米国のいいなりとなって憲法破壊の暴走を繰り広げる安倍政権の動きを阻止する大きな力となるとともに、朝鮮半島で生まれている北東アジアの軍事的緊張緩和と平和的解決に向けた流れに大きく貢献するものである。

自由法曹団は、今回の沖縄県知事選で明確に示された基地のない平和で、誇りある豊かさを求める沖縄の民意に沿って、日米両政府に対して、辺野古新基地建設の中止と普天間米軍基地の無条件・即時閉鎖を強く求めるものである。

2018年10月22日

自由法曹団 福岡・八幡総会